

特別支援学校

教科【美術】

単元【作業学習で販売するうちのデザインを考えよう】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

作業学習で販売する製品のデザイン作成に、例示やタブレットの特性を活かすことで、主体的に学習に取り組み、個性豊かな作品をつくる表現力を身に付けることができる。

ICT活用のポイント

生徒の考えたことを直感的に描くことのできるICT機器の特性を活かした活動を通し、主体的に作業学習に取り組むことができる。

使用するICT機器	iPad , AppleTV , テレビ	使用するアプリ・クラウドサービス等	Pages , Keynote , Googleドライブ
クラウドの活用	☒ 教材の配布・回収等 ☐ 生徒の学習状況の把握	☒ 資料等の共有 ☐ その他 ()	

本時のねらい	うちのデザインを考えて描き、発表・印刷をする。		
	主な学習活動 (学習場面)	ICTの活用・留意点等	評価
導入	○本時の目標を確認する 一斉 ○教師の作成したデータを提示する	事前にKeynoteで作成したスライドをGoogleドライブに保存し、導入の際、生徒はドライブにアクセスし、本時のねらいを確認する。 クラウド 生徒に見通しをもたせるため、事前に作成したうちのデザインを大型モニターに提示する。 指針3 クラウド	
展開	○個人ワーク 個別 ○作品の発表 一斉	うちのデザインに使用するテンプレートを生徒のiPadに表示し、見通しをもたせる。 指針4 クラウド iPadでデザインを描く。 ・直感的な機能を活用し、線の太さや色の付け方、消しゴム機能の使い方など、疑問点を教師に確認する。  ここで評価 AppleTVのミラーリング機能を活用し、作品を大型モニターに表示しながら、それぞれ考えたテーマや作成上の留意点をクラス全体に発表する。 指針5 クラウド	 【態】 主体的に作品づくりに取り組むことができる。 
終末	○本時の振り返り 個別 一斉	次回の授業の流れを伝え見通しをもたせる。 ・描いた作品を作業学習で渡した紙に印刷し、うちの完成させる。	

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度